

IV-277 歩行空間における誘導サインシステムの評価

○東京都庁 正会員 三浦 敏雄
 東京都立大学 正会員 山川 仁
 東京都立大学 正会員 秋山 哲男

1. 研究の目的

現在歩行空間における誘導サインの問題点として、歩行者の経験・評価に基づいた配置計画がほとんど行われていないこと、情報伝達機能が十分に機能が果たされていないことが挙げられる。そこで本研究では、第一に誘導サインに関する歩行者の経験・評価を整理し、第二に誘導サインの配置を中心とした評価を行なうことを目的とした。

2. 研究の方法と構成（図1）

①世田谷美術館の誘導サイン調査

誘導サイン全体の評価を目的として、誘導サインが駅から美術館まで体系化されている世田谷美術館地区を事例に、歩行者アンケートを行ない、歩行者のルート選択と迷い・不安の経験状況、またサインの頼り度・評価などを歩行経験、ルート別に整理を行なった。

②都立大キャンパス誘導サイン実験

誘導サインそのものの評価を目的としてキャンパス内に誘導板を配置し、「気付き度」「距離確認度」「役立ち度」等について歩行者アンケートを行なった。

3. 誘導サイン全体の評価（世田谷美術館誘導サイン）

(1)調査の概要

誘導板は、「たぬきの誘導板（狸をモチーフにデザインされた小さな誘導板）」と暫定誘導板等が図2のように配置されている。アンケート回答者数は表1のとおりである。

(2)アンケートの結果とまとめ

①歩行者のルート選択

図2は、歩行者交通量図である。これより、主要な歩行ルートが数本に限定されていること、「起点」にて特にはみ出しやすいことが指摘された。

②道の迷いと不安の経験

図3は、道に迷った場所・不安に感じた場所をプロットした図である。この図より、「起点」における誘導に問題性が高いことが指摘される。歩いている道に不安を感じるのは、200m程度の薄暗い直線区間（特

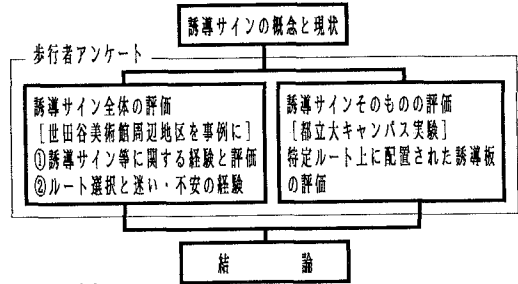


図1 研究フロー

表1 アンケート回答者

	はじめて	再 来	合 計
誘導サイン	27人	31人	58人
誘導サイン	13人	3人	16人
合 計	40人	34人	74人

◇誘導サインが体系的に配置されている歩行ルート
 ◇誘導サインが体系的に配置されていない歩行ルート
 ◇表の読み方
 ex)はじめて誘導サインを歩いた人→27人

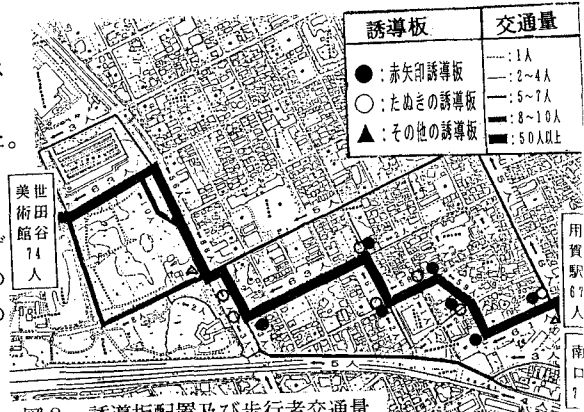


図2 誘導板配置及び歩行者交通量



図3 迷い・不安を経験した場所

に並木道）において現れていることがわかった。

③誘導サイン等に関する歩行者の経験と評価

図4は歩行者のサインの頼り度等の経験について、図5はサイン等の評価を5段階評価にて、歩行経験・ルート別に整理した結果である。

図4より、誘導ルートにおいて、はじめての人では100%、再来の人でも過半数がサインを頼っており、かなり高い利用率であること、「たぬきの誘導板」の気付き度は極端に低いこと、「下調べ」の有無については、誘導ルートより誘導外ルートの歩行者の方が下調べをした人の割合が高く、下調べの効果が発揮されず却って逆効果が生じていることがわかった。

図5より、誘導ルートにおける「道のわかりやすさ（歩行ルートに対する評価）」の結果より、はじめての人と再来の人との間では評価にあまり差がないこと、「サインの有効性」に関しては両者に差は出たが良い評価であること、「たぬきの誘導板」はほとんど誘導板として機能していない現状が明らかになった。

4. 誘導サインそのものの評価（都立大キャンパス実験）

(1)実験の概要

都立大キャンパスにて、学会会場からカフェテリア館までのルート上に臨時誘導板（距離表示付き）を6箇所（図6）に配置し、歩行者アンケートを行った。

(2)実験の結果とまとめ

個々の誘導板に対する「気付き度」「距離確認度」「役立ち度」を図7に示す。

「気付き度」においても「役立ち度」においても起点〔I〕の誘導板が他を引き離して上位に出ていることから、起点における誘導サインの重要性がここでも示された。一方距離確認度に関しては、〔VII〕の誘導板が上位に出ていることから、長い直線区間〔V～VI〕における歩行者の距離意識の増大が指摘された。

5. まとめ

- ①「起点（駅周辺）」における誘導機能が不足、あるいはあっても不十分である。
- ②主要な歩行ルートは、数本に限定されている。
- ③「狸の誘導板」はほとんど機能を果たしていない。
- ④「起点」の誘導案内がルート上で最も重要性が高い。

6. 参考文献

- 世田谷区企画部都市デザイン室：公共サインのデザインー路上整理学ー、1989
宮沢功：街のサイン計画、鹿島出版会、1987

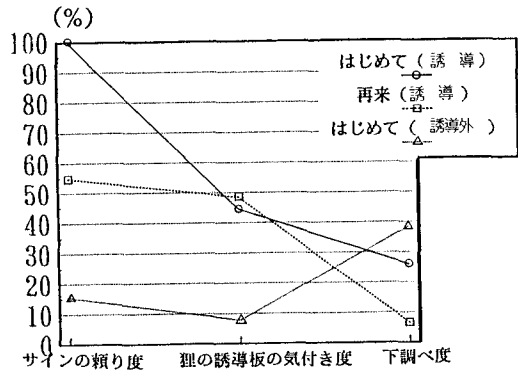


図4 歩行者の行動

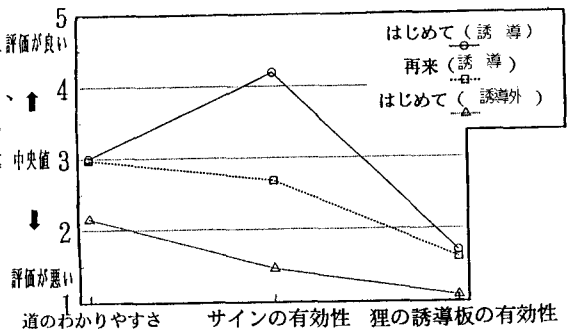


図5 歩行者の評価

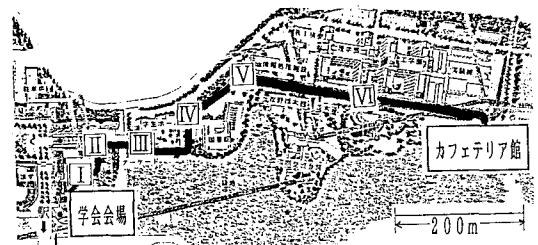


図6 誘導板配置図（都立大キャンパス）

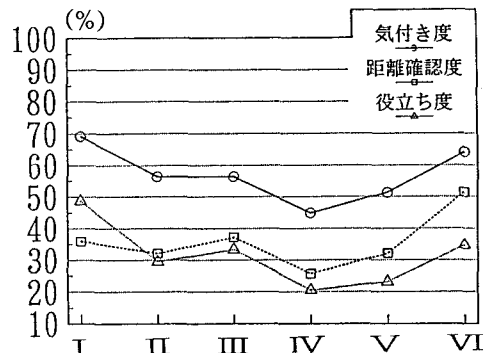


図7 個々の誘導板の評価